

JAS対応「穀粒判定器」

コメ・麦など農産物の成分分析・測定機器メーカーの株式会社科学研究所（本社・東京都大田区）では、同社が開発・販売する「穀粒判定器R N-700」の機能として、令和5年8月1日から「玄米整粒×モリ」を新たにオプショで追加可能にしている。玄米整粒×モリによって新たに整粒を表示できるようになったことで目視鑑定に活用できる。

5年4月1日には（一）社）日本精米工業会より「穀粒判定器（精米）」として認定され、精米JASへの対応が可能となった。認定期間は8年3月31日までの3年間。同社は、5年8月1日から「精米JAS×モリ」を新たにオプショで追加可能とし、精米製造工程中における格付けが対応可能となった。

同器による測定対象は、うるち玄米と精米（オ

同器は、コメの機械鑑定仕様確認済器種。人の目に代わるコメ検査員のパートナーとして、全国の米穀業者・実需者に活用されて高い評価を得ており、全国米穀工業協（大嶋衛理事長）茨城・関東穀粉（株）社長の推奨品となっている。

項目は、精米歩留りや炊飯時に大きく影響を及ぼすとされる粒質▽白未熟粒▽死米▽着色粒▽碎粒▽胴割粒――の5種類。異物・その他・整粒等の結果表示はユーザーモード設定時のみ。オプシ

ンのうるち精米の判定項



目は、▽異種穀粒▽被害 要。すぐに撮影でき、同
粒▽粉状質粒▽碎粒▽亀 じ条件下での撮影が行え
る。裂粒▽正常粒——となる。



能)。屋外でもはっきりのデータ閲覧ソフトで測見やすい器体の有機EL 定時に撮影された画像をディスプレイに表示さ 閲覧・保存できる。

測定は、最初にトレイの下にある透過光画像用光源により、液晶全体を光らせてトレイ上にあるコメー1粒ごとを認識し、コメ粒の形状や白未熟粒などを判別する。トレイの下から真つ白な光を当てると、良質米は透光通っているが、白未熟粒なら透光通らないため、その違いを器械が認識する。

次に両脇にある54個のLED光源（赤・青・緑色の各18個ずつ）が点灯し、反射光画像を撮影して玄米表面の色（着色粒・死米など）を判別する。さらにスポット透過光により、スポットライトを当てるように光を点灯させて撮像することで、揚精歩留りに大きくかわる胴割粒の検出精度を飛躍的に高めている。

積の測定データを視覚的に把握でき、より高度なコメの解析も可能だ。

RN-7000による米粒品質の測定は、一律の目盛(検査線)による判定が可能のため、個人差や地域差などがなくなり、客観的なデータを得られる。精米用の判定目盛(同)も備えることができるため、判定した品質情報を独自に付加価値として付けることも可能だ。

またオプションのデータ管理ソフト「データロガーRDL-01」「同NDL-04」を使用することで、RN-7000と「成分分析計AN-920」の測定データの一括管理も可能となる。AN-920は、玄米・精

操作はタッチパネルの搭載で分かりやすく、約40秒で成分分析が完了する。

各器の詳しい問い合わせは同社本社（☎03・3776・1111代）まで。

でき、測定値の保存・管理が可能。1粒ごとの品質分類だけでなく、1粒ごとのトレイ上の位置、1粒ごとの長さ・幅・面

国産玄米・精米の検量線データが入力されているため、すぐに測定でき、結果はプリンターやパソコンに出力できる。